

# 伏見革新懇

発行  
平和・民主・革新をめざす  
伏見の会  
発行責任者 家野貞夫

〒612-8054  
京都市伏見区御堂前町617-1  
山京桃山ビル4F  
京都南法律事務所内  
Tel. 075-604-2133 (溝江)

## 沖縄から夜明けが始まった 次は京都から

～玉城デニーさん大勝利の歴史的瞬間に立ち会う～

黒崎夏彦（オール沖縄と連帯する伏見の会・事務局長）



9月30日夜、私たち伏見の4人は、「玉城当確みたいや」の報に、タクシーを飛ばして那覇市の教育福祉会館に駆け付け、選挙結果を見届けようとあふれんばかりに集まった人びととともに、その瞬間を今か今かと固唾を呑んで待っていました。そして、午後9時半過ぎ。突然の叫び声、「やったあ」「勝ったあ」の大歓声、拍手、ガッツポーズ、「デニー」「デニー」の大コール、そして待ちに待った「バンザイ」、デニーさんの素晴らしいスピーチ…。

沖縄県民と本土の人びとの喜びが一気に爆発した歴史的瞬間でした。

選挙の最終盤、9月25日から3泊4日の日程で、応援に



行った伏見の4人衆（沖縄連帯伏見の会・伏見革新懇・京退教伏見支部のメンバー）は、台風24号の影響で



飛行機が欠航し、10月1日まで那覇に滞在しました。9月25日午後、那覇空港から沖縄統一連事務所に直行しました。そこで瀬長亀次郎さんのお孫さんの瀬長和男事務局長に、伏見で集めたカンパ（23万円）、よせがき（年金者組合も含め計6枚）を手渡し、記念写真に収めました。それから6日間、那覇市、宜野湾市で、のぼりを掲げた音の宣伝、ビラ折り、ビラまき、V（ヴィクトリー）ロード作戦、電話かけ、棄権防止活動など、伏見の4人衆はチームワークの良さを発揮してがんばりました。気がつけば、沖縄の強い日差しで、顔や腕は逞しく日焼けしていました。

「日本の夜明けは沖縄から」が、始まりました。これに次いで、「日本の夜明けは京都から」を、いっせい地方選、参院選、京都市長選、府知事選で実現しようと固く心に誓い、1日に「不屈館」を訪問し、京都に戻ってきました。

最後に… 翁長雄志さん、ありがとう！

## 龍大生は語る ～憲法、ヒロシマ、沖縄～ 若者憲法集会、原水禁大会、沖縄フィールドワークに参加して

Mさん(龍谷大学経済学部2回生)・Yさん(文学部1回生)  
聞き手 西山のぶひで(伏見革新懇事務局次長)

今年安倍政権が改憲案の国会提出を狙った中、伏見の学生も平和を守る取り組みや学習に参加してきました。龍谷大学の学生MさんとYさんは、若者憲法集会(6月3日・東京)、原水禁世界大会(8月6日・広島)、沖縄県へのフィールドワーク(9月2日)にそれぞれ参加。感想とこれからの決意を西山のぶひで伏見革新懇事務局次長(写真)が聞きました。

\*\*\*\*\*

**西山:** さて、今年は安倍首相がいよいよ改憲に着手すると宣言し、国会提出をめざしていました。自らの森友・加計学園への疑惑のために改憲の国会審議は進みませんでした。その野望は捨てていません。そんななかで、若者の中では6月に若者憲法集会が東京で取り组まれました。まず、参加した感想を聞かせて下さい。

**M:** はい。憲法を守るために全国の若者が頑張っている。声をあげてたたかっていることをあらためて痛感しました。集会に全国から1100人が参加したそうです。



初めてデモに参加、  
緊張した



**Y:** すごい熱気でした。僕は初めてのデモ行進でしたが、圧倒されました。

**M:** 私もデモははじめてです。緊張しましたが、前から2列目を歩いちゃって。でも、沿道から手を振ってくれたり、外国人が写真を撮ったりしていて反応が大きく、主張が広まっていけばいいなと思いました。でも、デモへの妨害もありましたね。怖かったけど、負けずにみんなで声を出せたのでよかったし、楽しかったです。

**Y:** そうですね。でも、反対勢力が出るくらい影響力のある取り組みだったんだということもわかりました。

**西山:** なるほど。そんな見方もできますね。ほかにどんなことを学びましたか?

**Y:** 僕は憲法にうたわれている「平和」とは、実際どんなものか、あいまいなもので、平和を今一度把握するために、若者憲法集会に参加しました。

辞書で調べてみると、平和とは組織的暴力がなされていない状態とか穏やかで変わりのない事などと記されています。そのところどうなんだろうって。

**西山:** 何かわかりましたか?

**Y:** はい。現政権は隠蔽、改ざんと国民に真意をひた隠しにことを運ぶ。また、情報を提供せずに強行手段を講じる。つまり、

組織的暴力が国民になされて、穏やかでないです。だから、デモに参加することで、一人では声なき声になる主張でも、束になることで世に知らせることが容易になるし、他の人の意見に考えやヒントをもらい見聞を広げられました。あの束になる空気感はお互いを高め合えます。

### 多くの国の人が 平和を願っていることを実感

**西山：**なるほど。Mさんは今年、原水禁世界大会にも参加しましたね。

**M：**はじめて参加しましたが、本当に多くの人に来ていて、広島県民ふくめ、多くの国の人が「平和」を願っていることをあらためて感じました。そんな中で平和記念式典の安倍首相の発言は、矛盾していることばかりで本当に信用ならないと思ったのと、ここに来るならなぜ核兵器禁止条約に参加しないのか、本当に疑問でしかなくて、最後まで「ここに立って話ができるのがすごいな」と思うばかりでした。

**西山：**広島には、海外の参加者も多く、さまざまなことを聞くことができたと思いますが。

**M：**はい。軍事費が世界でどれくらい使われているか、日本人に対してどう思っているかなど、新鮮な話を聞けました。アメリカでは軍事費に国家予算の5割が充てられ、教育や社会保障への負担がかなり増加していることが問題視されているそうです。ひるがえって日本を見たとき、同じような状況があります。社会保障が不十分で、格差と貧困が広がり、奨学金を軍隊から借りる学生がいるというアメリカ。日本でも、中高生に自衛隊の募集が入っているのはこわいですね。

**西山：**そうですね。日米の軍事関係でいえば、集中的に現れているのは沖縄県です。Yさんは民青同盟の沖縄県フィールドワークに参加したそうですが、沖縄はどんな状況でしたか？

**Y：**普天間基地（写真）が住宅のすぐ近くにつくられていて、生活区域の一部のように溶け込んでいると感じました。小学生にヘリの騒音について聞くと「慣れた」ということで、落下物の危険もあるのに、危険を慣れるという怖い状況と感じました。慣れさせられることは、考えることまで奪ってしまうようです。

### 沖縄県民のきずな、 全国に広がってほしい

**西山：**問題になっている辺野古には行きましたか？

**Y：**はい。本当に美しい景色で、この沖縄の海の美しさを共有する県民が、基地建設を強行する勢力にデモ行進する姿に奇妙なものを感じました。

**西山：**奇妙？

**Y：**はい。あの沖縄の海を見たら、美しい景観を守りたいという人が政府側にいてもいいはずなのに、しかたなく追随しているのかなど。

**西山：**そうですね。個人ひとりひとはさまざまな思いがあるでしょうね。

**Y：**沖縄の歴史も学びました。近年、何度も選挙を通じて政府の理不尽な圧力を跳ね返し、県民世論を示している、そのことが県民のきずなを深めているのではないかと思います。このきずなが全国に広がるといいですね。



**西山：**ちょうど沖縄県知事選に、京都をはじめ全国からの支援が広がっています。米軍基地の問題は沖縄の問題ではなく、日本全体の問題です。ぜひ、沖縄に思いを寄せたいですね。二人とも現地に行くと感じることが多くあったと思います。ぜひそれを京都で発信してください。

**M・Y：**はい。

**西山：**ありがとうございました。

# 「『安倍改憲』、岐路に立つ日本」

9・18改憲を考える伏見・学習と交流の集い  
～福山和人さんの講演（大要）～

9月18日、龍大深草キャンパスで開かれた集いでの福山和人弁護士・元京都弁護士会副会長の講演・大要です（文責・伏見革新懇事務局）。わかりやすいお話で大変好評でした（録音CD＜47分＞あります。ご希望の方は伏見革新懇事務局まで）。

## ◆憲法は誰のためにあるのか。

憲法の中で一番大事な条文は何か。「すべて国民は個人として尊重される」（第13条）という個人の尊厳原理、これが日本国憲法の究極目標を示したものだ。国民主権等の諸原則は全て「個人の尊重」という社会を作るツールとして規定された。日本国憲法が生まれる前まではそういう社会ではなかった。だから、戦後の日本は出発点で個人の尊厳原理が保証される世の中を作ると宣言した。憲法は国民一人一人が敬われるために存在している。

## ◆安倍9条改憲提案とその狙い

「改憲案が国民投票で否決されても自衛隊は違憲にならない。現状も違憲ではない」という。では何のために改憲するのか。また、「今の自衛隊をそのまま書き込むだけだから何ら変わらない」と言うが、安保法制以降の自衛隊と、専守防衛を旨とする自衛隊とは別物だ。2015年、南スーダンに派遣された自衛隊員は「遺書」を書かされ、戦争状態のところに武器使用要件を外されて派遣された。そういう自衛隊をそのままOKするのが今回の安倍改憲提案だ。

改憲案第1項には「必要な自衛の措置をとる」とある。最初の案には「必要最小限」とあったが「最小限」を削った。だから「必要性」さえあれば先制攻撃も核武装もOK。何でもできますよと憲法上

なりかねない。平和国家としての今までの道が全て否定される。

「まずは9条加憲論を提案し、改憲の心

理的ハードルを下げた上で、“真の日本”を目指す」（日本会議：伊藤哲夫氏）のが狙いだ。自民党改憲草案では「天皇は元首」。「個人の尊厳」の“個”が消えて、公の秩序・お上の都合によって制限する。基本的人権の永久不可侵性もなくす。こういうものが“真の日本”だ。こんなものを見過ごしてはいけない。

それでも北朝鮮や中国の脅威をいう人もいる。アメリカのGDP（2015年）は2020兆円、日本は500兆円、韓国は170兆円。北朝鮮は1兆8千億円で島根県とだいたい同じ。まともに戦って北朝鮮が存立できるはずがない。また、今の日中韓の貿易高は50兆円くらいで日本の国家予算の半分以上。これをぶっ潰して戦争状態に入れるのか。

## ◆今求められていることは何か

今、求められていることは9条に自衛隊を書き込むことではなくて、「個人の尊厳を大事にしよう」、「これを究極の目標にして人権の花開く社会を作り上げよう」という日本国憲法を全面的に実現していくこと。安倍9条改憲に対抗するだけではなくて、今の日本国憲法が描く理想を現実のものに近づけていくために大きな世論を作り上げていただきたい。

“臨時国会に自民改憲案” “参院選前に国民投票”の暴走を止めよう！  
3000万署名達成へがんばろう！

